

筑豊石炭礦業遺跡一覧（そのI）：飯塚市内の部

宮崎, 太郎
筑豊炭鉱遺跡研究会

<https://doi.org/10.15017/13686>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 10, pp.180-194, 1979-03-03. エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：



筑豊石炭砵業遺跡一覽(そのI)

飯塚市内の部

宮崎 太郎

かつて吾が国の石炭生産の最大を誇った筑豊炭田も貝嶋露天堀坑の閉山を最後に一坑残らず無くなりました。そして炭坑閉山後の現在、残されたものは鉱害と硬山のみだといわれています。

しかし私は二十万人近くの炭坑労働者とその家族が生活し百年以上にわたる石炭採掘の歴史から考えて、炭坑が地域社会の発展と地方文化向上に貢献した役割は非常に大きなものがあると思います。そこで私はこの四年間、閉山後の炭坑に残されている施設・設備や好景気の時期に炭坑経営者が神社仏閣に寄附奉納したものや、また学校・図書館・劇場・農場・鉄道等地域に寄贈したものを調査し、更に鉄道敷設以前筑豊の一般物資を川舳で輸送していたその基地と舟頭たちの信仰と事蹟の現地踏査もしました。

私は一老人ですし、コツコツ歩いての調査でありましたので能率も上らないし不十分な面もあります。また尺度は目測的確ではありません。しかし写真には全部収めております。現在までの調査は筑豊全域と北九州・宗像・朝倉及び福岡の各炭坑で、県内では三池炭坑を残すのみとなりました。そこで地域別にその報告を順次いたしたいと思っています。私の限られた力量内で精一ぱいの調査を行ったつもりです。その点御了解の上、御参考になれば幸いです。

飯塚市内の部

(一) 残存する炭坑施設

飯塚市内に於ける大手炭坑は麻生・日鉄・三菱・古河・住友の各坑

である。住友忠隈坑の事務所は穂波町、古河目尾坑の事務所は小竹町であるのでこれらは除外したが、古河目尾の元町坑は飯塚市に入れる。

〔麻生産業株式会社各炭坑〕

本社所在地 飯塚市芳雄七番十八号

○麻生芳雄製工所

所在地 飯塚市芳雄

残存設備 工場・炭住・浴場・倉庫・煙突(赤練瓦)

現在操業中

調査期日 昭和四十九年十月三日

○飯塚病院 (麻生各坑従業員の治療と外来患者を受けた)

所在地 飯塚市芳雄

現在診療中。

全施設残る。

調査期日 昭和四十九年十月三日

○麻生産業株式会社 上三緒炭坑

所在地 飯塚市上三緒

残存設備 炭住(現在個人の物)浴場・硬山(写真①)・従業員会

館(現在木工場)白門坑坑口(現在密閉し残る)

調査期日 昭和四十九年十一月十九日

○麻生産業株式会社 山内炭坑

所在地 飯塚市山内

残存設備 炭坑事務所・従業員会館・炭住（現在個人の物として残る）売店・水槽・ボタ山・岡之浦坑捲場基礎
現在団地化進む。

調査期日 昭和四十九年九月十九日

○麻生産業株式会社 愛宕炭坑

所在地 飯塚市愛宕

残存設備 炭住・労務詰所・水槽・ボタ山・売店
全団地化。

前調査期日 昭和四十九年十一月十日

再調査期日 昭和五十二年十月十五日

○麻生嘉麻鉱業所

所在地 飯塚市柏の森

残存設備 炭坑事務所

調査期日 昭和五十二年十月十日

〔日鉄鉱業所各炭坑〕

日鉄鉱業株式会社 二瀬鉱業所

本社所在地 東京都千代田区丸の内二の二十の一

○日鉄二瀬鉱業所 高尾二坑

所在地 飯塚市二瀬本町

残存設備 炭住・水槽・水攪場基礎・石炭積込場（写真②）・ボタ山
団地化進む。

調査期日 昭和四十九年十月十五日

○日鉄二瀬鉱業所 高尾一坑

所在地 飯塚市幸袋西町

残存設備 炭住（写真③）・ボタ山

調査期日 昭和四十九年十月十五日

○日鉄二瀬鉱業所 潤野炭坑

所在地 飯塚市潤野

残存設備 炭住・捲場基礎（赤練瓦造り）・ボタ山・水槽二基・炭住

備考 再調査期日 昭和五十二年十月二十日現在炭住街は団地化し前の姿なし。採掘中は温泉がでていたが、閉山後坑道閉鎖のため湯は出ない。赤練瓦の捲の基礎は高さ二間、横二間、縦四間の構造物である。炭住・機械場の敷地跡は嘉穂高校の敷地として造成されて居る。

〔古河鉱業株式会社目尾鉱業所〕

本社所在地 東京都千代田区丸の内二の八

○古河鉱業目尾鉱業所 元町坑

所在地 飯塚市目尾元町

残存設備 捲場基礎・炭住（元の姿なし団地化している）

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年十月十四日

〔三菱鉱業株式会社鯉田鉱業所〕

本社所在地 東京都千代田区丸の内一丁目五番地一号

○三菱鉱業鯉田鉱業所 一坑

所在地 飯塚市鯉田

残存設備 自家用発電所（写真④）・攪炭場・炭住・炭坑事務所・石炭貨車引込線・冷却槽・倉庫（現在機関場炭住跡は露天掘のため原野化す）

山神社 あと残る、大山祇本社に御魂は御返する。

調査期日 昭和四十九年十月二十八日

○三菱鉱業鯉田鉱業所 二坑

所在地 飯塚市鯉田

残存設備 炭住・ボタ山・二坑坑口の碑・山中初太郎之碑

〔二坑坑口の碑 Ⅱ 高サ二尺五寸・基礎石横一尺五寸・二段（御影石）大正二年十月二十八日建立する）

調査期日 昭和五十二年七月十三日

備考 山中初次郎之碑

所在地 飯塚市鯉田三菱一坑西方丘

建立期日 明治三十四年七月建立

碑の形 高サ二間・基礎石横幅四尺（御影石）・穂（自然石）

建立の趣意文によれば……山中初次郎君

明治元年筑前の国黒崎村に生る、長じて三菱高嶋炭坑に就職し転じて鯉田炭坑に來たり、累進して坑内小頭監督になり君は資性謹直義を泰山よりも重じ難に茲みて諦せず一月九日鯉田第三坑炭柱採掘に際し上盤墜落の難に罹り重傷を被むり遂に起つあたはず年僅に三十九又四衆大いに之を惜む此に於て知人朋友相謀り碑を坑南の丘の上建以て不朽に伝ふ、明治三十四年七月工学博士松田武一郎撰（碑文略）

調査期日 昭和五十二年七月十三日

〔照国鋳業株式会社〕

本社 直方市

社長 有吉満

○照国鋳業井の浦一坑

所在地 飯塚市庄司井の浦

残存設備 炭住・水槽

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年十月十五日

○照国鋳業井の浦二坑

所在地 飯塚市中

残存設備 炭住・ボタ山

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年十月十五日

〔加茂鋳業株式会社〕

本社所在地 飯塚市目尾

社長 加茂恭吉

○加茂鋳業目尾炭坑

所在地 飯塚市目尾

残存設備 捲場基礎・硬山・炭住

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年十月十四日

〔二瀬鋳業株式会社〕

本社所在地 飯塚市伊岐須

社長 石橋健蔵

○石橋鋳業相田炭坑

所在地 飯塚市相田

残存設備 捲場基礎（高サ三間・横二間）白練瓦造り

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年九月二十五日

備考 相田炭坑統系 中野徳次郎・松本潜・伊藤伝六（共同経営）

中野徳次郎（個人経営となる）中野俊幸中野山長三郎中野石橋健蔵中野有吉満中野幸袋鋳業中野河上利徳中野仲村一雄で閉山する。

〔照国鋳業株式会社〕

○下相田炭坑

所在地 飯塚市下相田

社長 有吉満

残存設備 炭住・事務所・硬山

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年九月二十五日

〔野見山鋳業株式会社〕

本社所在地 飯塚市花瀬

社長 野見山佐市

○野見山鋳業昭和炭坑

残存設備 炭住・硬山

山神社 大山祇神社

〔渡辺（正雄）鋳業株式会社〕

社長 渡辺正雄

所在地 飯塚市花瀬

○渡辺鋳業鎮西炭坑

所在地 飯塚市花瀬

残存設備 炭住・倉庫

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年九月十九日

〔森藤鋳業株式会社〕

所在地 飯塚市上三緒宮ノ浦

社長 森藤了

○森藤鋳業宮ノ浦炭坑

所在地 飯塚市上三緒宮之浦

残存設備 事務所・車庫・炭住

山神社 地元稻荷神社

調査期日 昭和四十九年九月十五日

〔北代鋳業株式会社〕

本社 飯塚市幸袋本町

社長 北代角之助

○幸袋炭坑

所在地 飯塚市幸袋本町

残存設備 炭住・倉庫・炭車

山神社 大山祇神社

〔渡辺（本治）鋳業株式会社〕

本社所在地 飯塚市伊岐須

社長 渡辺本治

○渡辺鋳業伊岐須炭坑

所在地 飯塚市伊岐須新町

残存設備 硬山

山神社 大山祇神社

調査期日 昭和四十九年九月三日

〔その他の炭坑〕

○深田炭坑（個人経営）

所在地 飯塚市鯉田南町

社長 深田行次郎

残存設備 炭住・浴場

山神社 地元氏神

調査期日 昭和四十九年十月二十八日

○藤井炭坑（個人経営）

所在地 飯塚市庄司観音谷

社長 藤井（名不明）

残存設備 炭住・事務所・ボタ山

山神社 地元氏神

調査期日 昭和四十九年十月十五日

○友寿炭坑（個人経営）

所在地 飯塚市相田

社長名 秋山友寿

残存設備 炭住・捲場（写真⑤）

山神社 地元氏神

調査期日 昭和四十九年九月二十九日

○花瀬炭坑

所在地 飯塚市花瀬

坑長 飯田（名不明）

残存設備 炭住二棟（写真⑥）

山神社（名称不明）

調査期日 昭和四十九年九月十九日

○鎮西炭坑

所在地 飯塚市野添

社長 渡辺甚六

残存設備 捲場基礎・硬山

山神社 不明

調査期日 昭和四十九年九月十六日

○新萩原炭坑

所在地 飯塚市上三緒岡之浦

社長 萩原万吉

残存設備 事務所・硬山

山神社 不明

調査期日 昭和四十九年九月十五日

（二）飯塚市内に於ける、炭坑主・川鑛業者（船頭）が奉納や建立した神社等

連名で奉納してある場合書頭二・三名を書きあと何名とする。寄附者名は炭坑主・鑛業者のみ記入する。□印は抹消し不明の場合。

○納祖八幡宮

御鎮座所 飯塚市大字飯塚六八八

奉納品名・奉納者名・奉納期日

神国一世の碑 嘉麻・穂波両郡献納者触口役麻生賀郎直信外七

名・明治三庚午八月献納、碑の高サ六尺、横幅台石下五尺、穂

横幅一尺八寸

狛犬二基 船頭弥六外十四名、嘉永五年壬子二月良日、御影石

社殿・社務所修理寄附

一、金拾五萬円 石橋鉱業社長 石橋健蔵

一、金拾萬円 麻生産業株式会社

一、金拾萬円 松隈又五郎

一、金參萬円 高野力

一、金參萬円 渡辺正夫

祠・境内水守神社再建 高サ九尺台下横六尺・嘉麻郡笠松村 麻生

太吉

鳥居 一基 高サ二間半、中野徳次郎維持

明治三十九年六月吉日 御影石

常夜燈二基 高サ七尺・台石下横幅七尺・嘉永五年壬子二月良日奉

納御影石・船頭弥六外八名奉納

東宮殿下御成婚記念献樹 光丘会

一、金貳仟円 中野徳次郎

一般寄附 一、金仟円 野見山清三 昭和三十八年十月吉辰

調査期日 昭和五十年八月二十三日

○勝盛神社

御鎮座所 飯塚市勝盛公園入口

奉納品名・奉納者名・奉納期日

締縄掛石柱（写真⑦） 御影石・明治赤池炭坑山神社・異転奉納

上田静馬

鳥居 明治赤池炭坑・異転奉納・上田静馬

勝盛神社ウラ鳥居 明治赤池炭坑、山神社より異転奉納・上田静馬

鳥居 日鉄二瀬鉱業所、中央炭坑山神社より異転奉納・上田静馬

狛犬二基 □□第一坑山神社より異転奉納・上田静馬

常夜燈二基 信和会奉納品・異転奉納・上田静馬

神殿改築・玉垣・宮構 費用一切を上田静馬担奉納する（全御影石）

調査期日 昭和五十年七月十五日

○若八幡宮

御鎮座所 飯塚市片嶋

奉納品名・奉納者名・奉納期日

祠 当村船頭中取締・林田弥右衛門、外八名

明治二十五年壬辰初秋日、御影石

祠 高サ四尺・基礎台下横三尺・砂岩

船庄屋安永喜右衛門・船頭古川又五郎外九名・嘉永三年十一月十四日

四日

玉垣 野見山清造外多数・昭和五十年八月二十五日

調査期日 昭和五十年八月二十五日

○高宮八幡宮

御鎮座所 飯塚市伊岐須

奉納品名・奉納者名・奉納期日

祠二基 大の方高サ一間半・基礎台下横幅五尺御影石・小の方高サ

一間基礎台下横幅四尺・御影石・祠名号に「山神社」とある。相

田炭坑納屋頭・寺嶋勇助・児嶋喜造、外九名・大正二年六月吉日

之建

鳥居第一 福岡県会議員野見山清三・高サ二間半・御影石・昭和二

十九年十二月吉辰

鳥居第二 高サ二間・御影石・神号に「大山神社」とある。

世話人相田炭坑大納頭・寺嶋勇助・児嶋喜造・北条□□・野村□

□・大正二年吉日建之・御神号「大山神社」とある。祠と同時に奉

納する

神殿改築寄附 二百円 中野徳次郎

上部かげ不明石柱 中野昇と有り

調査期日 昭和五十年八月二十五日

○水祖神社

御鎮座所 飯塚市川津

寄附金 拜殿改築 伍仟円 中野昇、大正十一年五月

調査期日 昭和五十年八月二十五日・二十六日

○許斐神社

御鎮座所 飯塚市幸袋本町

奉納品名・奉納者名・奉納品名

常夜燈二基 高サ七尺台石横幅三尺・延享五戊辰年五月吉日（砂岩）

伊藤伝右衛門

鳥居一基（写真⑧）高サ三間・伊藤伝右衛門・「継蔵伝六遺志建之」

とある。御影石・明治三十三年九月建之

玉垣 高サ三尺・横幅一尺（御影石）全本数不明・伊藤伝右衛門・

大正五年吉辰

社殿総改築 老萬貳仟円 伊藤伝右衛門 大正十年十一月寄附

社殿総改築 五百円 松本健次郎 大正十年十一月

社殿総改築 五百円 中野昇 大正十年十一月

祠徳馨国口燿碑 高サ二間石台下横幅九尺・御影石・北代角之助建

之・昭和十四年三月

祠 高サ四尺台石下横幅二尺五寸、砂岩石・幸袋船頭中献納・明治

二十三年寅六月吉日周旋人・篠崎五右衛門外四人

調査期日 昭和五十年九月二十三日

○浜生神社

御鎮座所 飯塚市目尾

奉納品名・奉納期日・奉納人名

神号御額 立二尺横一尺五寸（金文字）・奉納板によれば「奉納御額・杉山徳三郎」とある。此の人は明治十三年十二月八日筑豊で初めて蒸気ポンプ運転に成功した人である。

残念ながら奉納年月日記入なし。

調査期日 昭和五十二年六月十日

○貴船神社

御鎮座所 飯塚市薙野

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

狛犬二基 高サ五尺台石下横三尺、砂岩石、肥前国伊良村・目尾炭

坑主杉山松太郎・明治十六年十一月奉納

調査期日 昭和五十二年六月十一日

○撃鼓神社

御鎮座所 飯塚市庄司

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

拜殿改築 中村庄屋兼船庄屋篠崎仁衛門外二十九名・万延二年辛酉

三月吉辰（神殿基礎石に記名）

調査期日 昭和五十二年九月四日

○高野山第一霊場

御座所 飯塚市薙野

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

仏像安座所 敷地五十坪・石垣・玉垣・御影石・古河鋳業所目尾炭

坑・昭和二十八年十月吉日（鋳害復旧）

調査期日 昭和五十二年六月十一日

○不動明王園

御座所 飯塚市鯉田

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

不動園建立記念 一千円 三菱鯉田鋳業所 昭和三十一年十月吉日

調査期日 昭和五十二年七月十四日

○皇祖神社

調査期日 昭和五十年八月二十四日

御鎮座所 飯塚市鯉田

寄附品名・寄附者名・期日

鳥居（写真⑨） 高サ三間 麻生賀郎・麻生太吉・嘉麻郡立岩村・

明治二十年一月吉辰、御影石

一般寄附 寄附者名石柱 高サ三尺五寸横幅七寸各一本宛

一、金壹仟八百七拾円 氏子中

一、金参百円 三菱鯉田炭坑

一、金貳百円 九州水力電気株式会社

寄附年月日不明

村社皇祖神社新改築寄附者名碑

高サ二間自然石礎共に三段

一、金貳仟円 三菱鋳業株式会社鯉田炭坑

一、金壹仟円 麻生商店

一、金百円 幸袋工作所社長伊藤伝右衛門

一、金貳拾円 三菱炭坑大納屋頭山村喜平

寄附名人石碑折れ残る分の文字

一尺五寸残れる分・山悦次郎、八寸・善吉、五寸・郎、二寸文字不

明 計五本

境内今刀毘羅神社の祠

祠高サ九尺・台石横幅七尺祠上部横側に舟中安全とあり弘化六年
甲辰六月良日・石工伊藤五三郎、砂岩、風化はなはだし

常夜燈 高サ四尺五寸（風化破損）台石横幅四尺五寸台石三段目船
中とある。砂岩、世話人・白石助作・松山新平・庄屋原田平七・

船頭取松山勘七・船頭取祝原寿衛門・船頭取祝藤次郎

祠・鳥居 高サ一間半正面石柱奉獻船中裏伍十長祝藤次郎・伍十長
右衛門外十五名左記・明〇〇〇〇八月吉辰・船頭伍十長祝原〇

二組長小田卯三郎外之

〇宣地獄神社・拝殿なし

調査期日 昭和五十年八月二十四日

御座所 飯塚市川嶋

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

常夜燈 高サ四尺（上部腐蝕）台一段横四尺・麻生賀郎・明治九年
丙子一月吉

常夜燈 高サ三尺・船頭取締役浅野藤吉・船頭取締役白土乎次郎外九名

（建立日不明）

〇蛭子神社拝殿なし祠

調査期日 昭和五十二年五月三日

御座所 飯塚市川嶋

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

祠（木造建築）基礎（御影石）船庄屋高次藤右衛門外二十一名 明
治二年己巳奉納

鳥居 高サ一間半

船庄屋高次藤右衛門外二十一名 明治二年己巳奉
納（御影石）

常夜燈二基 高サ五尺台石横幅三尺（御影石）船庄屋高次藤次郎・

藤右衛門外二十一名 明治二年己巳奉納

〇八満宮社

調査期日 昭和五十年八月二十四日
御座所 飯塚市川嶋

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

常夜燈二基 高サ七尺台下横幅四尺 船中安全船庄屋喜助
弘化〇〇建立・砂岩

〇川嶋八幡宮

調査期日 昭和五十年八月二十四日

御座所 飯塚市川嶋

奉納品名・奉納者名・奉納期日

狛犬二基（舟中と刻名あり） 高サ一間半基礎石一間半 天保申午
歳

祠 八幡宮境内（志賀宮木造建）奥行一間半横一間

鳥居一基 高サ一間半 安政四年一己正月吉辰

参道 石段舟庄屋高次喜助外多数

小型川舳 長サ三間 八幡宮拝殿下にある水難救助に使用（小型川
舳と同形）

〇熊野神社

調査期日 昭和五十年八月二十四日

御座所 飯塚市立岩

奉納品名・奉納者名・奉納期日

鳥居一基 高サ二間半御影石・麻生太吉・昭和八年十一月建之

常夜燈二基 高二間（御影石）台下横一間 昭和三年御大典

現金 五百円麻生太吉寄附、年月日不明

〇負立神社（負立八幡宮）

調査期日 昭和四十九年九月六日

御座所 飯塚市柏の森

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

常夜燈二基 高サ二間台石下横幅七尺、麻生五郎、昭和五年七月建立、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横幅七尺、麻生太七郎、昭和五年七月建立、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横幅七尺、麻生義之、昭和五年七月建立、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横幅七尺、麻生太右衛門、昭和五年建立、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横幅七尺、野見山マヌ、昭和五年建立、御影石

常夜燈二基 高サ二間半台下横幅一間半、麻生太吉、昭和五年七月建立、御影石

鳥居一基 高サ三間、麻生太吉、明治四十年十二月吉日建之、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横七尺、爪生長右衛門、昭和五年七月建立、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横七尺、麻生尚敏・富雄、昭和五年七月建立、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横幅七尺、麻生惣右衛門、昭和五年七月建立、御影石

鳥居一基 高サ二間半、爪生長右衛門・同満、昭和十三年九月吉日辰建之

神池名碑一基 高サ一間台石下横幅五尺、麻生太次郎、自然石

参道池渡り橋 長サ四間幅一間半、麻生太吉、昭和三年一月改造、御影石

負立八幡宮社名碑一基 麻生徳七郎・勇吉、明治三十八年一月建之、御影石

常夜燈二基 高サ二間台石下横幅七尺、麻生賀郎・同太吉・同太七石垣玉垣 慶応四年代辰八月吉祥日

石垣玉垣 石垣(御影石)玉垣(コンクリート)、麻生太吉
祠庚申尊天一基 麻生名の者七人

鳥居一基 高サ一間半、麻生太吉、御影石
常夜燈二基 砂岩、麻生太右衛門真信

締縄掛二基 高サ二間二尺五寸(角)、麻生藤一郎・麻生惣兵衛、明治三十五年七月建之

神殿外廊玉垣 麻生商店・山内鋳業所・上三緒鋳業所・豆田鋳業所・吉隈鋳業所・綱分鋳業所・赤坂鋳業所・芳雄製工所・若松出張所、昭和三年一月一日奉納

祠鳥居・祠(須佐神社) 鳥居一基 麻生太七、大正十一年二月三日

祠鳥居・祠(恵比須神社) 鳥居一基 麻生惣兵衛、明治四十四年十二月吉日

祠 鳥居祠(宮地獄神社) 鳥居一基 麻生太吉

祠 鳥居祠(貴船神社) 鳥居一基 麻生惣兵衛・爪生長右衛門・麻生太七、明治四十二年吉日建之

祠鳥居・祠(天満宮) 鳥居一基 麻生太吉、明治四十二年一月建之

〇地蔵園
調査期日 昭和五十一年一月十五日

御座所 飯塚市柏の森
奉納品名・奉納者名・建立年月日

地蔵園 総坪数四十坪(コンクリート)・玉垣・自像二体・常夜燈二基・全御影石 昭和六年十月建立、麻生太吉勲三等

〇心吉社(心吉神社)
調査期日 昭和四十九年十月二十九日

御鎮座所 飯塚市下三緒
奉納品名・奉納者名・奉納年月日

祠（心吉社内）祠一基、鳥居一基高サ一間半、大正八年十一月建之、

麻生太吉外五人

○白山神社

調査期日 昭和五十二年五月十三日

御鎮座所 飯塚市上三緒

奉納品名・奉納者名・奉納年月日

常夜燈二基 高サ八尺台下横幅四尺、砂岩、麻生太吉

祠一基 高サ七尺五寸台下横幅四尺、組長井手清七・船取締白

上口郎外三十七名「船中安全」刻字あり。砂岩、明治二十年九月吉日建之

鳥居一基 高サ一間半、砂岩、組長井手清七・船取締白上 郎外三

十七名「船中安全」刻字あり。明治二十年九月吉日建之

寄附碑 高サ七尺台下横幅四尺、砂岩、金百四十円・金貳十円麻生太七、明治三十五年壬寅仲夏吉

○三嶋神宮

調査期日 昭和四十九年九月十一日

御鎮座所 飯塚市菰田

寄託品名・寄託者名・寄託品製作年月日

鳥居一基 住友忠隈炭坑 奉納者納屋頭・職員中、昭和三年十一月

狛犬二基 所長中島萬蔵、昭和九年三月

玉垣六〇箇 社殿敷石二十五箇

常夜燈二基 手洗鉢一箇、納屋頭職員中、此の品々は住友忠隈炭坑

閉炭後山神社を解体し三嶋神宮に寄託したものである。

○貴船神社内徳前公民館

調査期日 昭和四十九年十一月十九日

所在地 飯塚市徳前貴船神社内

寄附品名・寄附年月日・寄附者名

公民館建設拾萬円 渡辺本治、五萬円 吉田繁、寄附年月日不明

(三)炭坑主等の社会福祉事業ほか

〔麻生家社会福祉事業〕

調査期日 昭和五十二年十一月九日

○財団法人嘉穂慈善会を組織し貧困者救済のため拾万円を寄附する。

大正七年五月飯塚市新飯塚。

○財団法人斯道文庫を昭和十三年十二月二十六日創設す、福岡市に置く。

○昭和三十三年四月二十六日斯道文庫蔵書一切を慶応義塾大学に寄贈。

○九州大学理学部創設基金として百万円を寄附、昭和十三年十二月二十六日。

○飯塚病院高等看護学院設立、大正七年九月飯塚病院看護婦養生所として開所し准看護婦養成所を経て昭和三十五年四月より高等看護学院となる。飯塚市飯塚病院内。

○飯塚図書館建設費図書購入費五万円寄附、昭和十六年十月八日開館、飯塚市新飯塚。

○飯塚市新飯塚。

○麻生鉦山衛生研究所創立、飯塚市新飯塚。

○嘉穂劇場、株式会社中座、麻生太七社長となり大正十年六月開場、

昭和六年二階となり伊藤隆個人経営となり、現在に至る。

○飯塚音楽祭 第一回 昭和四十九年八月開催

八月八日（第一日目）

嘉穂高校混声合唱団・入場者一、〇〇〇人・参加四団体（合唱祭）

飯塚病院高等看護学院外十八団体・入場者一〇、〇〇〇人（パレード）

（パレード）

飯塚納祖八幡宮・納祖太鼓（納祖太鼓会）・入場者二〇、〇〇〇

人（祭飯塚）三十団体

八月九日(第二日目)

ちあきなをみりサイタル 入場者五、六〇〇人

大学対抗バンド合戦 入場者七〇〇人

祭飯塚宿場太鼓 入場者四、二〇〇人

祭りへのプレリュード 入場者六、〇〇〇人

八月十日(第三日目)

飯塚音楽祭・グランプリ 入場者四、〇〇〇人

チャリティーショー 入場者四、〇〇〇人

世界の音楽ジャズ 入場者一、四〇〇人

祭りへのプレリュード 入場者一〇、〇〇〇人

祭飯塚 入場者五六、〇〇〇人

八月十一日(第四日目)

五木ひろしリサイタル 入場者八、〇〇〇人

アマチュアコンテスト 入場者八〇〇人

世界の音楽 入場者一、三〇〇人

ジャズ 入場者一六、〇〇〇人

第一回目入場者総計一七一、六〇〇人

○昭和五十年八月第二回音楽祭

八月七日第一日目 入場者二〇、〇〇〇人

八月八日第二日目 入場者三〇、〇〇〇人

八月九日第三日目 入場者四〇、〇〇〇人

八月十日第四日目 入場者五〇、〇〇〇人

昭和五十年第二回目入場者一四〇、〇〇〇人

○昭和五十一年八月五日第三回目音楽祭

八月五日第一日目 入場者四〇、〇〇〇人

八月六日第二日目 入場者三五、〇〇〇人

八月七日第三日目 入場者四五、〇〇〇人

八月八日第四日目 入場者六〇、〇〇〇人

昭和五十一年第三回目総入場者計一八〇、〇〇〇人

昭和四十九年・五十年・五十一年、三回入場者総計四九〇、〇〇〇人

○人

○松本太助墓碑(写真⑩) 正面「釋教剛」法名文

調査期日 昭和五十二年十一月六日

墓碑裏・嘉麻燭石坑頭梁職務精勵有持巧明治三十一年三月坑主麻生

太智吉建之(生存中建立)

明治三十五年旧八月十三日六十四才卒

碑建立場所・飯塚市下三緒三組

○麻生塾創設

調査期日 昭和五十二年十一月十二日

場所 飯塚市柏の森七番地

麻生塾沿革

昭和十四年三月三十一日 麻生太賀吉麻生塾を設立

昭和十九年十二月一日 奥國克己塾長就任

昭和二十二年三月三十一日 麻生塾小学校設立

昭和二十三年三月三十一日 麻生塾工業高等学校設立、採鉱科設置

昭和三十四年二月七日 機械科設置

昭和三十五年三月三十一日 麻生塾小学校に特殊学級設置

昭和四十五年四月一日 工業化学科設置

昭和四十七年三月三十一日 麻生塾小学校廃止

昭和四十九年七月一日 麻生太郎理事長就任

本校の特色

一、教育の徹底を図るため小定員制および全寮制を採用する。

二、授業料は徴収しない。

三、寮費、賄費、教科書、ならびに学習に関する見学・実習に要する

費用は学校負担とする。

施設概要

本館・教室・実験室・実習室・講堂・寄宿舎・附属施設、三一〇〇
m²

運動場・プール・バレーコート・テニスコート、七〇、二〇〇m²

○麻生山内農園 飯塚市柏の森

明治四十三年三月造園する。

梨・柿・ブドウ・蔬菜・花類・花卉温室

ブドウ温室あり。

〔伊藤家社会事業〕 住所 飯塚市幸袋

調査期日 昭和五十二年十一月五日

○飯塚市幸袋小学校講堂寄附

昭和十二年十二月三日竣工式挙行する。

建坪三百十坪、地下室九十坪附属建具一切

百科辞典二十冊・喇叭鼓隊編成用具一式

○嘉穂郡立技芸女学校 飯塚市西町金比羅山

明治四十三年四月八日設立する。嘉穂郡立として郡に寄附し臨時費

に経常費を加えて毎年其経費を郡に寄附した。

大正元年実科高等女学校、大正五年高等女学校、大正八年福岡県立

として県に移管する。同時に十万円を寄附する。内五万円を講堂建

設、内五万円を図書館建設費とする。

○伊藤農園 飯塚市幸袋新町通り

明治四十三年造園する。

園の広さは果樹一町三反一畝・蔬菜一町七畝・花壇芝畑三反六畝

計二町七反四畝、梨・柿・ブドウ・蔬菜・花類・又花卉温室・ブド

ウ（欧州系）温室あり。

○伊藤育英会

事務所 福岡市山莊通り一丁目伊藤八郎方

創立月日 大正八年（大正天皇御大典記念）に設立。

伊藤育英会資金式十万円 受給者に義務を負わせない純然たる無条

件育英会

大正四年より昭和三十七年までに会出身者二六五名、現在十一名の

給費者あり。

○幸袋職工学校

所在地 飯塚市幸袋株式会社幸袋工作所内

大正八年四月授業開始

創立の目的 機械工業に関する知識・技能を修得し、併せて徳性を

涵養す。

科目 図工科・鑄工科・鍛工科・錐工科・旋工科・鑄工科・電工科

修業年限各工科共四年

貸与・給与 生徒修業中に要する制服・制帽・作業服・靴・脚絆・

帶革・製図道具・教科書は半額を補助する。寄宿舎生徒の食費は、

第一・第二学修業中実費の半額、第三・第四修業中の者には全額を

給与す。

年度経費

昭和十一年度 一九、五三五

昭和十二年度 二〇、八三二

昭和十三年度 二六、二〇二

本校は大正八年四月二十四日 入学式挙行。

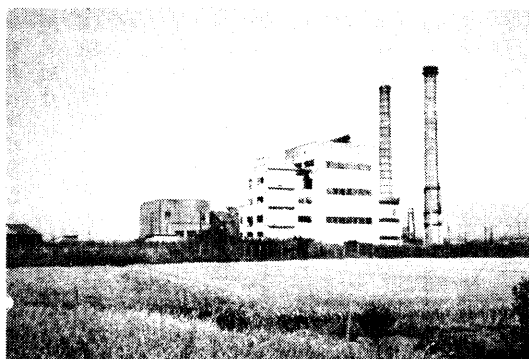
昭和二十三年三月 学校令改正により閉校。

○嘉穂農業高等学校同窓会館門柱寄附

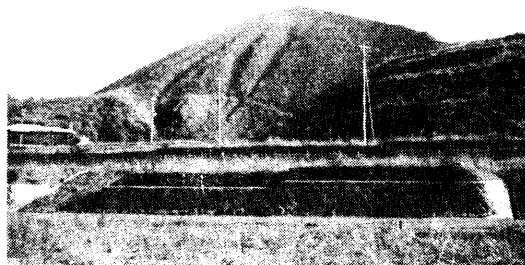
場所 飯塚市鶴三緒

右側門柱一本高サ十尺・二尺角（御影石）

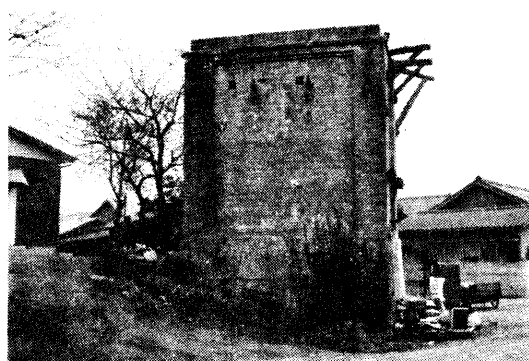
明治三十四年四月二十三日



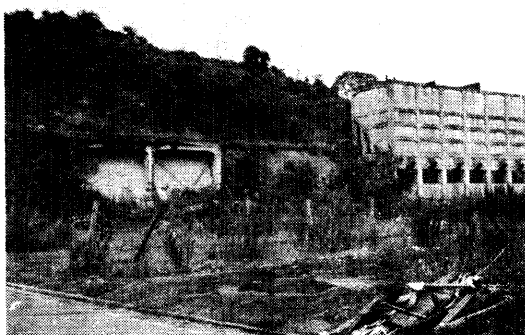
④ 三菱鯉田一坑火力発電所



① 麻生上三緒炭坑硬山（西側より写す）



⑤ 友寿炭坑捲揚



② 日鉄二瀬高尾二坑石炭積込場
（元の引込線が道路になっている）



⑥ 花瀬炭坑炭住



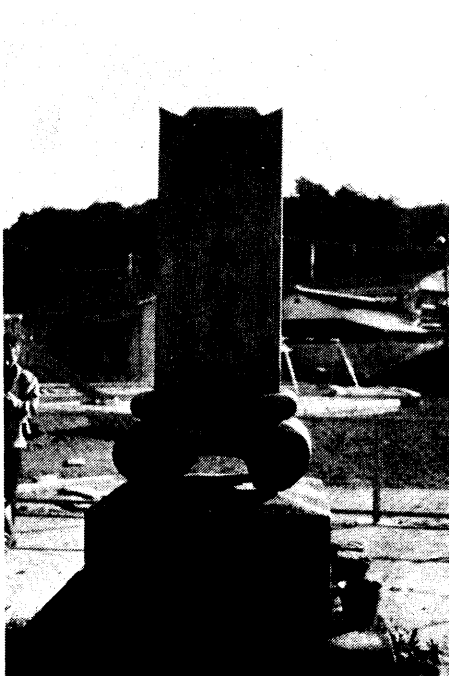
③ 日鉄二瀬高尾一坑炭住



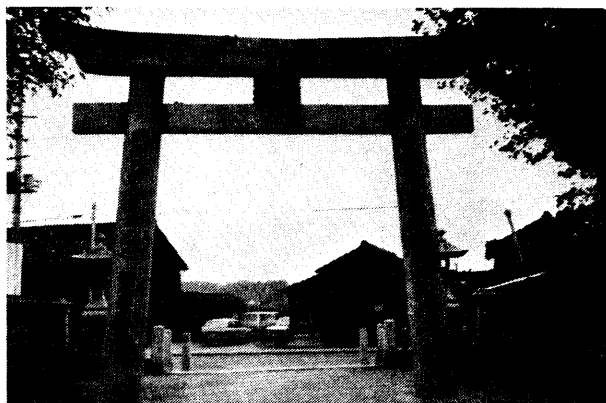
⑨ 鯉田区皇祖神社



⑦ 勝盛神社（上田氏建立）



⑩ 松本太助の墓



⑧ 許斐神社鳥居（伊藤伝右衛門氏奉納）

〔中野家の社会事業〕 飯塚市水江

○嘉穂農業高等学校同窓会館門柱寄附

場所 飯塚市鶴三緒

左側門柱一本高サ十尺・二尺角（御影石）

明治三十四年四月二十三日

④飯塚地方に於る川艦数 明治二十二年中旬

川嶋・一〇〇そう 鯉田・一〇〇そう

下三緒・一五〇そう 飯塚・二二〇そう

片嶋・一〇〇そう 幸袋・八〇そうである。

追記 此の原稿を書くにあたり御協力して下さいました、飯塚病院事務
長深町純亮さん・幸袋製作所総務課長代理山本三郎さん・麻生セメン
ト本社社内報編集室大庭和俊さん・麻生塾塾長奥園克己先生・近畿大
学桑原三郎先生・稲築高校香月靖晴先生・日本大学田中直樹先生に心
から感謝申し上げます。

（二七〇頁より）

千弗にして、我藩に買入れしは千八百六十一年、乃ち我
文久元辛酉年九月長崎にて受取られたるものなり。

本船は文久三年正月二十五日紀州大島沖に於て沈没せり」

『金子万吉事蹟』（筑紫史談第四十集）

元治元年二月

松平加賀守前田石炭山堀起シニ付、礦夫借用之儀申入有之、依之

礦夫二人借渡ニ相成

（福岡藩綱領 卷十二）